

『ここにつくったらいいねん』 5歳児5月



エピソード

A 児とB 児がトイでビー玉転がしをしていました。遊んでいると、ビー玉が溝に入り、避難用具入れの下にたまっていました。

A 児とB 児が用具入れの下を覗き込みながら、ビー玉を取ろうとしましたが、手が届きませんでした。そこでほうきを取って来て、しゃがみ込み、ほうきでビー玉を押し出そうとしました。

B 児は A 児の反対側で覗き込みながらビー玉が出てくるかじっと見守っていました。しばらくするとB 児側からビー玉が出てきて「あっ、出てきたで！」とビー玉を取り、A 児は嬉しそうにB 児の方を見て、自分でできた喜びを感じていました。

すると、B 児が「ここにつくったらいいねん」とトイを用具入れの下に入れて新しいコースをつくり始めました。その様子を見ていた A 児が「いいやん」と言って一緒にコースをつくっていき、できあがるとビー玉を何度も転がしてはトイの横を走って、ビー玉が転がる様子を目で追って遊んでいました。

保育者の思い

- 自分達で考えたことを伝え合いながら、遊びを進めていって欲しいと思いました。

二人のやりとりや遊びを進める姿を見守ってみよう・・・

ビー玉がたまった経験
↓
「どうしようかな・・・」
↓

💡「ここにつくったらいいねん」
発想の転換が面白い！！

子どもの育ちや学び

経験をもとにどうすれば良いか自分なりに考えたことを友達に言葉で伝えたり、友達の思いを受け入れたりしながら、自分達で遊びを進めることができるようになっていきます。

言葉での伝え合い

遊びの展開

家庭だったら・・・

大人から見たら「失敗では？」と思うことも、子どもにとっては失敗だと思っていないことも多いです。

すぐに「～したらいい」と答えやヒントを出すのではなく、少し待って子どもの考えを聞いてみてはどうでしょうか。「なるほど！」「面白いな！」という子どもなりの柔軟な発想が出てくるかもしれませんね。